

第5回くまもと未来会議 議事録

日 時:平成22年10月11日(月・祝) 10:00~11:30

場 所:崇城大学市民ホール(市民会館) 2階 大会議室

テーマ:アジアに向けた熊本の発信や交流拡大について

出席者:小栗 宏夫 委員 (熊本経済同友会 代表幹事)

姜 尚中 委員 (国立大学法人 東京大学大学院 情報学環 教授)

崎元 達郎 委員 (国立大学法人 熊本大学 顧問)

橋田 紘一 委員 (株式会社 九電工 代表取締役社長)

坂東 眞理子 委員 (昭和女子大学 学長)

蒲島 郁夫 議長 (熊本県知事)

<ゲスト>

澤田 秀雄 様 (株式会社 エイチ・アイ・エス 代表取締役会長)

【事務局】

それでは、ただ今より「第5回くまもと未来会議」を開催いたします。私は、事務局を担当しております、熊本県企画振興部企画課の坂本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。はじめに、委員の方々をご紹介させていただきます。

熊本経済同友会 代表幹事 小栗 宏夫 委員

国立大学法人 東京大学大学院 情報学環教授 姜 尚中 委員

国立大学法人 熊本大学 顧問

放送大学熊本学習センター 所長 崎元 達郎 委員

株式会社 九電工 代表取締役社長 橋田 紘一 委員

昭和女子大学 学長 坂東 眞理子 委員

そして、本日はゲストといたしまして、株式会社 エイチ・アイ・エス 代表取締役会長、そしてハウステンボスの社長でもあります澤田 秀雄 様にも御出席いただき、以上 6 名の皆様に御出席いただいております。

なお、

株式会社 東京証券取引所グループ 取締役兼代表執行役社長 斉藤 惇 委員

九州旅客鉄道株式会社 相談役 田中 浩二 委員

認定 NPO 法人 スペシャルオリンピックス日本 名誉会長 細川 佳代子 委員

クレディ・スイス証券 株式会社 会長 松島 正之 委員

におかれましては、本日、所用のためご欠席でございます。

それではこれより、蒲島知事が議長として会議の進行を行います。知事、よろしくお願いいたします。

【蒲島議長】

おはようございます。皆様、大変お忙しい中、くまもと未来会議にご出席いただき誠にありがとうございます。また、今日はたくさんの傍聴の方に来ていただきありがとうございます。

さて、本日は御多忙の中 HIS 会長の澤田さんにも、御参加いただきました。澤田さんのご活躍はご存知かと思いますが、HIS の会長として、世界中でビジネスを展開されており、また、今年の4月から、ハウステンボスの社長にも就任されました。今年のゴールデンウィークには、ハウステンボスの入場者数が前年比20.9%増と、3年ぶりに増加に転じたところです。まさに、様々なアイデアをお持ちです。今日はアジア、そして、世界から見た熊本の可能性についていろんな角度から御意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、これから意見交換に入りたいと思います。本日のテーマは「アジアに向けた熊本の発信や交流拡大について」です。まず、小栗委員の方からお願いします。

【小栗委員】

それではご指名でございますので、今回のテーマについてお話をさせていただきます。皆様もご存知のように熊本は人口が減少しており少子高齢化も進展しています。熊本の市場は今後、縮小していくことが予想されますので、やはり、急成長するアジアの成長の取り込みと、交流を拡大していくことが非常に大事だと思います。そういう点では、熊本の特性を生かしていくことが非常に重要ではないかと思えます。その点について少し話をさせていただきます。

まず第1点目はいかにして交流を促進していくかではないかと思えます。人口減少の中で、地域の資源、地域の活力を維持・向上していくためには、やはり交流人口の拡大が不可欠です。観光振興と併せて国際交流に力を入れていく必要があるのではないかと思います。今日は澤田社長もいらっしゃっていますので、色々教えていただけたらと思います。観光面では、やはり熊本は、歴史、文化、遺産、また自然環境、食の豊富さなど、非常に豊富な資源を持っていますので、これをどうやってアジアのニーズに合わせて情報発信し、どう維持していくかということが非常に大事ではないかと思えます。例えば阿蘇ですけれども、私は十数年前に熊本に赴任して参りました時に、初めて阿蘇を目にして、その素晴らしさに感動したことが、今も鮮明に記憶に残っています。阿蘇というのは、観光資源として高く評価されると思いますが、この観光資源をどうやって活かして、アジアの方々のニーズに合わせたシナリオを描いていくかということが、またそしてそれを情報発信していくことが非常に重要ではないかと思えます。また、情報発信ですけれども、やはり九州全体で各県が連携して、まず九州の認知度をアジアで高めていくことが非常に大事だと思います。もうすでに皆様ご存知のように、2005年に九州の一体的観光の振興のために九州観光推進機構が設立され、今活動しております。そういう観点で、やはり九州全体のアジアにおける認知度を高めるとともに熊本が九州の中における拠点性を高め、そして多様な情報を発信していくことが必要だと私は思います。また熊本の観光資源を核にした九州観光資源のネットワーク化なども必要ではないかと思えます。現在新幹線の全線開業を見据えて、KANSAI戦略の中で熊本のブランド化を推進中ですが、アジアに対しても、このような戦略を展開していくことが必要では

ないかと思ひます。

国際交流も非常に大事だと思ひますが、これは産官学、各々のニーズに合わせた形の交流の場を広げていくことが重要でしょう。県も、中国の広西壮族自治区や韓国の忠清南道と姉妹提携をして交流を深めていらっしゃいますが、この交流の輪を、さらにベトナムなどアセアン諸国の方々にも広げていくことが必要ではないかと思ひます。

県内の高等教育機関 14 校が共同で取り組んでおられます高等教育コンソーシアム熊本では、県内留学生 2,000 人計画を進めておられますが、留学生の受け入れ態勢を整える必要があるのではないかと思ひます。県内の学生の方々も、積極的にアジアに留学して、相手国のことをよく理解し、そして熊本のことも具体的に説明していく。やはり熊本をよく知っていただいて、熊本に親しみを持ってもらえる方々が増えていくことが交流の拡大につながっていくのではないかと思ひます。

もう一つはものづくりの点ですが、熊本は、既に皆さんもご存知のように、高品質な農水産物については全国でも評価が非常に高いわけですから、さらに食品加工分野の振興に注力すれば、アジアに向けて高品質で安全な農水産物及び加工食品の生産拠点となるとともに、農水産物の技術開発拠点としての地位を確立していくことにつながると思ひます。

製造業についてお話ししますと、アジアは急成長しています。急成長していますが、エネルギーの需要や増大と環境汚染への深刻化が懸念されているのも事実です。本県では、従来より積極的な企業誘致で半導体関連や輸送用機器関連などの産業の集積が進んでおります。これに加えて、再生エネルギーや省エネ技術を、水汚染の再生や消化技術などの蓄積に取り込み、エネルギーとか環境といった次世代型の産業の育成に取り組むことが求められるのではないのでしょうか。またバイオや再生医療といった分野への先行投資を行うことで産学官一体となったものづくり産業の拠点化も推し進めていく必要があるのではないかと思ひます。以上でございます。

【蒲島議長】

ありがとうございました。それでは姜さんお願いします。

【姜 委員】

今小栗さんから本当に的確な、観光、第一次産業、それから製造業についてご指摘があったので、私の方から何かそれに付け加えることもさほどないんですが、全く意見は同じで、問題は確実に熊本県も含めて日本の人口状態がはやりずっと変わりつつあって、これも非常にシンプルな議論なんですけども、人口が逡減して女性の識字率が上がると、大体、経済成長が止まるということは、大体人口動態の側面からも不可避的だといわれているわけです。韓国は今、おそらく日本より少子高齢化のスピードが速いと思ひます。韓国一人あたりの GDP が日本の 1.4 倍、1.5 倍くらいですけども、交通費が比較的安いので実感としてはさほど変わらなくなっている。しかも韓国は日本より急テンポで少子高齢化が進んでいます。ただ、日本の最大の問題点は、韓国と比べると人口が 2.5 倍くらいあるということなんですね。先進国 G7 の中でアメリカを除いて 1 億

数千万の人口がある国は日本しかいないんですよ。ヨーロッパ、せいぜいドイツであっても8千万もいるかないかだと思います。韓国はまだ約4900万。そして観光であれ、製造業であれ、将来は第一次産品のブランド化は各国進んでいませんけども、要するにあらゆる産業分野が輸出ということ想定し、それでどうやってサバイバルできるかということ。ところが日本の場合、今どうしても1億2千万の国内市場のシェアをどう高めるかっていう発想が今まで強かったと思うんですよ。従ってどうしても高性能、多機能のいろんなものが作れても、実際にはそのニーズに合わない。ですから、ものづくりでも韓国よりはるかに優れている面がありながら、市場では、よくガラパゴス化が進んでいると言われているわけですね。私はその人口の遞減にやっぱりどう対応するかが大事だと思うのです。一つ、韓国と比較してみますと、選択的な移民制度に向かうのではないかという、そういう選択肢も今少しずつ出ています。日本の場合なかなかそういうことはできないので、やっぱり留学生をかなり重視して、これを熊大の場合にはまだ1千人も満たないんですよ。その半分以下ですよ。やはりもう少し、留学生受け入れに積極的に熊本がイニシアチブを取るべきではないかと思います。それはどうしてかということ、問題は九州がまとまりづらいのは、圧倒的にガリバー型に大きい県がないということですね。もちろん福岡が経済の中心ですけども、それでも東京首都圏のように東京だけが突出してそこに吸引力を持つというのではなくて、かなり分散的です。分散的はいい面もあるんですけど、逆にいうとまとまりづらい。熊本がやっていることは九州全体の問題になるという一般化の戦略が私は必要だと思うんですね。つまり熊本なしには九州は成り立たないという。私の目から見ると、見方次第では、熊本はなくても九州は成り立つというふうに見える。その一つのコアはやっぱり私は教育ではないかと思います。熊本の良さは自然資源、天然資源、先ほど小栗先生からもお話がありましたけど、ここが文教、教育の非常に重要な中心だったということですね。ですから、これは、将来は蒲島知事がおっしゃっている州都構想につながっていく。今、人材育成というのは、もう九州全体のテーマですし、その中でもう少し踏み込んで、人の受け入れ、特に留学生の受け入れにかなり大きなこのポイントを絞ってやるべきではないかと私は思います。それをやることで、熊本の問題は九州全体の問題に展開できる。これは釈迦に説法ですけど、ヨーロッパの場合は、そういうそのプログラムがあるわけです。全体の学生達は海外の大学を選べるエラスムプロジェクトというのがありますが、あれはヨーロッパをまとめるのに非常に役に立ったといわれています。ですから私はそういうプロジェクトを、いっそのこと大々的に熊本が打ち上げたらどうか思っています。歴史的な資源としては、今年辛亥革命100年で、宮崎滔天という孫文を助けた非常に重要な人がいるわけです。けれども、中国の人には、宮崎滔天熊本ありきっていうことは、あまり知られてないと思うんです。その宮崎滔天は間違いなくアジア発信の先駆者だったと思うんですね。だからその宮崎滔天のような人物を継承していく、何かエラスムプロジェクトなどは大きいですけど、宮崎滔天プロジェクトみたいな、つまり、今日の熊本九州と東アジアをつなげていく先駆者が熊本から出たということなんです。結局、熊本というところは少しネガティブにいうと、非常に優れた人物を外に押し出している市なんですよ。熊本ではなくて、金沢の方でああいったかたちでものすごく検証されていますし、宮崎滔天もそうだったと思うんですけど、とにかく私は人に絞って、しかも文教、教育ということに絞って、熊本の良さという

ものを出した方がいいのではないか、それによって九州全体の問題にこれを転嫁できると思います。その選択をこれから考えていかないと、州都構想っていうものもまだまだ認知度が低いからですね。なぜそういうことかという今僕は、旧東西両ドイツの統一のプロセスを研究していました、結局西ドイツが東ドイツをどうして統一できたかという、ドイツ問題がヨーロッパの問題だというレトリックを作ったんですね。ドイツの運命はヨーロッパの運命だったという、熊本の運命は九州の運命だという、これをさかんに言っていくレトリックが必要なんじゃないかと思います。その重要なコアは、やっぱり教育、人材育成、東アジア、九州全体の人材育成にやっぱり熊本が中心になって、しかもその熊本でやっていることが、九州及び東アジアに大きな突破口を開くような、そのようなことを少し思いつきの程度かもしれませんが、提示したいと思います。

【蒲島議長】

ありがとうございました。それでは崎元さんお願いします。

【崎元委員】

姜さんから、文教、教育に絞ってという、心強いお話があって、私も大変賛成をしたいところですが、少し一般論からお話します。今行政が何をしているか少し代わって紹介しますけども、県は、昨年の3月に熊本国際化総合指針というのを策定されておりますし、市の方は今年の3月に熊本市の国際化指針というのを策定して公表しておられます。私、知りませんでした。今回読ませていただきましたけども、いずれこういう国際化ということで問題になるのでその指針等にも書いてございますけど、多文化共生の地域づくりというのが必要になるということは指摘してありますので、市民、県民の皆さんに、この指針を一度読まれたらいかがかというふうにPRしておきます。そこでは今日のテーマであります、諸外国との交流拡大と、多文化共生の地域づくりという話を書いてあるわけです。交流拡大というのは国外から人、モノ、資本、情報を呼び込む、それから熊本からも人、モノ、資本、情報を発信する、そういう方策をどうするかということだと思います。人、モノ、資本、情報の発信という、あるいは相互移動ですね、具体的にいいますと、今小栗さん、姜さんがおっしゃいましたように、農林水産物等の県産品の輸出とかあるいは企業進出とか観光誘致、知名度アップのための広報など、そういうところが論点になるかと思います。ここで申し上げたいのは両指針が述べていることは非常に立派で、実現ができれば現在の課題のほとんどのものが解決されていくと思いましたので、県も市も、どうぞ予算を用意して早く実行に移していただきたいと思います。指針に述べられていないこと、あるいはさらに、重要なことということで、3点ご指摘をしたいと思います。

ものごとの方策を立てる時に、一般論でアジア、あるいは東アジアという感覚では多分いけないわけです。東アジアといっても韓国、中国、香港、台湾、それからアセアンの10ヶ国、14ヶ国ぐらいが対象になると思うんですけども、単にアジアといえどもっと多くの国を含むことになります。そういう国を某とみていますと、そういう戦略、戦術の具体性とか実現性が乏しく、薄くなるというふうに思います。戦略・戦術を国別に立てるということが当然必要になると思います。当面はやはり韓

国、中国、香港、台湾等の国に絞って、他の国も重要ではありませんけども、あまり広げないで、4ヶ国ぐらいの国別に戦術、戦略を考えるべきだろうと思います。当然それぞれの国の生活水準、嗜好等が異なるわけですから、戦術、戦略を変えるべきであるということになります。韓国の人、あるいは台湾の人にとっては、観光、温泉、ゴルフ、買い物ということがありますけれども、中国の一般市民の方には、そこまでの余裕というのはいない。むしろ中国では沿岸域の都会の富裕層のみが今のところターゲットになるだろうということです。この3月に沖縄に旅行する機会がありました。あるリゾートホテルに泊まったわけですが、そこで大きなイベントをしていて、なんだろうと思ってみますと、そこには20組ぐらいのカップルが集団で結婚式を挙げていました。日本人ではありません。中国のカップルであります。沖縄での挙式が憧れとブームだということで、驚いたわけですが、こういう例もあり、個別、国別に考えるということが必要だろうと思います。

それから指針の中でもう一つ指摘がしてあり私も賛同するんですけども、そういう国を選んだうえで、さらに選択と集中をするすべとして、やはり姉妹都市、地域を核として交流の拡大を図ることが重要であると思います。小栗委員からもご紹介がありましたように、中国の広西壮族自治区、韓国では忠清南道ですね。県内の大学も、それにシンクロナイズをしているといいますか、そういうところに対して交流協定の大学を通じて交流を進めています。熊本大学ですと、広西師範大学、あるいは広西大学、広西医科大学、桂林理工大学と交流協定を結んでおりますし、広西師範大学は崇城大学とも、あるいは広西大学は県立大学とも協定を結んで交流をしているという状況があります。韓国の忠清南道につきましては、熊本大学は培材(パイチャイ)大学、あるいは韓国科学技術院、これはカリスト(KAIST)といって、韓国 NO. 1 の技術系の大学ですけど、それから崇城大学は忠清大学、県立大は祥明大学、学園大は大田(テジョン)大学校と交流協定を結んで交流しています。モンタナについても同様でございますけれどもここでは省略をいたします。そういうふうに姉妹都市・地域で、ある程度そこを核にして広げていくというのが一つの手段ではないかということです。大学をそういう面では大いに利用していただきたいというふうに思います。

もう一点は、産学官、企業、大学、行政 NPO、その他の諸団体、それから個人のコラボレーションが必ず必要だということでもあります。単独ではできないということで、その交流拡大の段階ごとに、企業、大学、行政、NPO その他団体、あるいは個人がコラボレートするという仕組みというのが大事であります。県、市の行政にそういうリーダーシップをとっていただくということが求められているのではないかと思います。外に向かっての交流拡大については特に企業、大学、行政のコラボレーションが重要であるという一般的なご指摘をさせていただいて私の最初の発言を終わりたいと思います。具体的な方策については次回、まわってきましたらお話をしたいと思います。

【蒲島議長】

ありがとうございました。橋田さんお願いします。

【橋田委員】

橋田です。私は福岡におりますので、現在福岡では、どんなことに注力しているかということ、そ

して熊本との関わり合いについて、少しでもご参考になればということでお話ししたいと思います。福岡では、県、市、または北九州市単位でそれぞれの民主党政権における政府の成長戦略、特に特区構成についてなど、どうかたちで街の活性化ができるかということを具体的に検討しています。それらは、来年あるいは再来年の予算編成に向けて検討しており、私が直接関与していることは、福岡における地域の成長戦略に関するプロジェクトチームを立ち上げ、具体的には、官民が連携し協議体のようなものをつくり、福岡であれば博多湾の活性化、ウォーターフロント開発を兼ねた観光、あるいは医療観光の誘致などです。そのための運動(PR)、港の開発及び街と港を繋ぐ交通アクセスの検討を行っております。例えば、市内電車みたいなものを走らせて、大量に観光客を運ぶなど。そうすると、福岡の街そのものを少し開発しなければならない。港湾地区では、居住できないようになっている規制を緩和してもらう。あるいは、航空の高さ制限を緩和していただき、高層のタワーマンションや事務所を建てる。その時には、エコ絡みでCO2を削減するハイブリッドな街づくりをする。そういうことを官と民が一緒にプランをつくり、そのビジネスモデルがある程度メガバンクの融資を導入できる、または外資の導入ができるようになれば政府に上申し、その官民一体の協議体に各種規制緩和の権限などを与えて貰うというプロジェクトに取り組んでおります。何が言いたいかというと、今は政府にお金がないので、民活を利用したかたちでの街の活性化に取り組んで欲しいと考えます。政府は活性化に向けた規制緩和など一生懸命に検討されますので、ぜひ、民活を利用した開発などを行って欲しいと思います。

北九州市は、環境都市ということで政府に申請をしていて、同市が従前から進めてきた環境都市づくり開発をさらに進めるということです。熊本におきましても、例えば一次産業、水、観光資源の面でも、非常に素晴らしいポテンシャルのある地域です。一方、残念ながら、あまりPRが行き届いてないのではないかと思います。私も熊本に2年ほど在住しておりましたので、熊本のすばらしさは体感しております。例えば、カルデラ、阿蘇、天草など世界に誇れる地があるのですが、いくら熊本県が単独にPRをしてもインパクトは非常に少ないと思うわけです。知事さんだけではとてもうまくいかないの、誰かが、一人ひとりが、自分たちの町や村、県は自ら自分達でつくるという動きを発信していかれると良いと思うのです。まさに、昨日の「みずあかり」祭りのように、民の力を使った大仕掛けのイベントができ、活性して行くと思うのであります。

熊本の活性化を検討する際、道州制の話が随分出ているようですが、私はやっぱり九州はひとつということで、熊本がアメリカでいうならワシントンDC、州政府になって、福岡はニューヨークでいいのではないかという気がします。熊本を中長期的にどういう街にするかということ、ぜひ皆さんで考えていただき、州都にするのだということであれば、それを意識した街づくりを構想していただきたいと思います。その時は福岡と熊本を完全に差別化する必要があるのではないかと思います。福岡はニューヨークでいいと思いますから、熊本は九州の州都であるということで、自然環境を大切に、水があり、あるいは素晴らしい食料もあります。九州を真ん中で分けると、北部は商業・工業が主体。南部の熊本、宮崎、鹿児島3県は一次産業あるいは観光を中心とした活性化を望まれているのであれば、その中で熊本はどうあるべきかを念頭におく必要があります。中長期的な熊本の有り様を、ぜひお考えいただけたら良いかと思います。

ただ、道州制の問題といってもすぐには来ないでしょうから、現段階でしばらくの間どういことをすればいいのかと思うのですが、やはり最大の関心時は九州新幹線が来年の3月に開通することだと思います。福岡は、阪急デパートやパルコも入りましたから、日本を代表するような物販ができる地域としてのかたちがだいたい出来上がり、大々的に観光客を招きたい。それはおそらくアジアの国々からも、東京にいかなくても福岡に日本の代表的な百貨店が全部揃っているということ、そして家電メーカーも隣接している。今日はHTB澤田社長もお見えであります、今年福岡港には66隻のコスタクルーズ船が入ってきます。そのうち40隻が澤田社長からの幹旋で博多港に入ってくるようになりました。これは去年の2.5倍であり、1隻あたり千名から二千名あたりの中国、韓国などの方々が上陸します。この方々が莫大な買い物をしてくれるわけで、経済効果は年間29億円ぐらいと言われております。おそらく来年は、これが5割増し、倍増というふうになるのではないかと考えています。一方、この観光客をいかに熊本に運ぶかも考えております。福岡ー熊本間が30分となりますので、上陸したらすぐ新幹線に乗ってもらい、熊本城に行ってもらおう。そして熊本でお昼ごはんを食べ、福岡に戻り、買い物をして帰国というコースもできる。また、ソウループサン間の新幹線も完成しますので、ビートルに乗って博多に回って熊本に行くというコースも観光ルートとして十分可能性があります。国内であれば、大阪以西のお客さんを3時間以内で熊本に運んでくることができます。そのように、新幹線を絶え間なく使うことによって、具体的な新幹線効果を検討されると良いのではないかと思います。

また、最近中国から水を買って欲しいという話がありました。中国が買いたい水の量はケタ違いで、一ヶ月にペットボトル500万本ぐらいを買って欲しいようです。これは第一段階のようですが、球磨川や白川水源の水などが良質で豊富だご紹介しました。本当に中国の方々は、何とか水を確保したいと考えています。ですから、熊本のこの水は大いにビジネスチャンスがあるのではないかと思います。

今、アジアの国々では東京、京都、大阪、奈良などが一番魅力があることになっています。残念ながら次は北海道となっております。私も最近北海道に行ってまいりましたが、北海道が非常に人気があるのは、道全体としてのPRがうまい。決して九州の観光資源が北海道に劣っているとは思えません。逆にはるかに九州の方が観光地としての魅力があると思っています。しかし、九州という一つのブランドができていない。アジア、特に中国人からみると九州は豆粒みたいな範囲なのです。その中で、日田や由布院や阿蘇など、そういうふうに分断して物事を考えるので魅力が落ちるのだと考えます。南の暑い国の方々は、雪などを見ると感激します。寒い国々にターゲットを絞れば、むしろ九州の方が魅力が出るのではないかと思います。先日、中国の総領事と会談した際にも、同じように、いつも東アジアやアジアからお客を連れてくることばかりを考えるのではなく、例えば西安や、中国の東の方、あるいはロシアなど、寒い国々の方を南国の九州に連れてくるという発想もあるのではないかとおっしゃってありました。話がバラバラになって申し訳ありませんでしたけれども、この後チャンスがあれば少し申しあげたいと思います。いずれにしても、道州制をにらんだところで、熊本の一番魅力的な部分を福岡とかとは差別化するかたちでぜひ活性化してほしいと思います。

【蒲島知事】

ありがとうございました。坂東さんお願いします。

【坂東委員】

今回の「くまもと未来会議のテーマ」が、「アジアに向けた熊本の発信や交流拡大」ということですので、総論的なことをまず言わせていただきます。アジアは大変な勢いで成長しています。特に中国、東南アジアの国々の発展ですとか、韓国が97年の危機克服後、完全に先進国の仲間入りをしつつあるという状況に比べると、日本はこれでいいのだろうか、このまま追いつかれ追い越されてしまうのではないだろうか。そして、妬ましいというのでしょうか、悔しいなど、そういったような感情にとらわれがちなのですけれども、私達は考え方を変えて、自分の国だけが豊かで幸せで周りに貧しい国がある方が、気持ちがいいというのではなしに、周りが繁栄することによって自分達も気持ちよく暮らせる、自分たちの同じ価値観を持つ人が増える地盤が広がっているんだというふうに、それを積極的に受け止めなければいけないと思うのです。先ほど、水の話が出ましたけれども、日本人は安全と水はタダだと思っていたのですが、豊かになったらやっぱりエビアンだとか、色々な水をお金を払って飲むというレベルに達したわけです。おそらく中国も韓国も色々なアジアの国々がお金を払って、安全を買う、環境を買う、あるいはサービスを買うという時代になってきます。日本が、九州が、熊本がそのエネルギーを活用するにはどうすればいいのかということを考えなければならないのではないかなと思います。

総論はそういったしますと、具体的にどうしてその活力を取り込むのか、特に先ほどからも熊本の特徴というのは、州都ということを目指して、学術、品格のある都市ということを考えるならば、やはり一つは留学生の拡大ということです。私も大学に関わっておりますので、今18歳以下の人口がどんどん減っていく中で、いかにして学部の学生達を確保するのかというのが課題です。実は日本にくる留学生たちは大学院レベルの人たちが比較的多いのですが、これからは学部の人たちを量的に拡大しなければなりません。その時に一番のポイントになるのは、英語で授業する、現地語で授業する、それによって日本人の学生も国際人になります。中国語で単位が取れる、英語で行うべき授業の単位を取るという大学、あるいは学部を熊本県は意識的におつくりになるべきではないかと思えます。例えば同じ九州の中でも、別府は場所を提供して大変な優遇措置を講じて立命館を誘致して、アジア太平洋大学をおつくりになりました。最初はああいうアジアの人達がくとエイズが広がるのではないかと周りの近隣の人たちはとても反対もあったらしいんですけれども、結果としては大分県にとって大きな財産になりつつあります。そしてあそこの学生の6割は留学生であります。そして、なぜそれだけきたかという、そこで英語で単位が取れるというだけではなしに、企業と協力をして、企業への就職を大学が斡旋をし、アジアの人材が日本の企業に就職をするためのステップボードを提供するという役割を果たしたことによって、人材を引き寄せたようです。そういった経験談を聞きますと、ぜひ熊本も、いろんな大学を招致なさる、あるいは場合によっては外国の大学を招致なさって、熊本キャンパスをおつくりになるということも考えられるので

はないかなと思います。もちろん、秋田国際教養大学のように、県立大学をすっかり英語で授業するという大学にして、全国から学生を集めるといったようなかたちをしているところもありますけれども、ぜひ具体的にそうした目に見える成果、2,000人全ての大学でというのではなしに、一つの学部でもいいです、キャンパスでもいいです。ぜひそうした、サンプル、良い事例をおつくりになるというのが必要だと思います。それはアジアのためになるだけではなしに、熊本県の若い青年たちにとって大きな刺激になるはずで、本気で勉強します。贅沢をしないで、将来のために目を輝かせて努力するという人たちと机を並べて勉強するというのは熊本の青年たちにとって大変大きな刺激になると思います。

それからこれは学部の学生たちの話ですが、次は職業人の養成というのは大きな課題ではないかと思います。日本の総人口の中でも特に労働力人口が減る中で、きちんとした職業人を養成する、それがアジアからきている人たちが、例えば看護師の試験を受けようとか、あるいは介護の社会福祉士の資格を取ろうと思っても、なかなかオンザジョブで仕事をしながら、勉強して日本の資格試験を取るというのはとても難しい状況です。それをもっと、ぜひ組織的に受け入れて、組織的に訓練をする。例えば看護師さんを300人受け入れて、1週間のうち、3時間は必ず日本語の勉強をさせてあげて3年経ったら試験に受からせませすというような施設をおつくりになる。あるいは、それはもう看護だとか介護だけではなく、農業人、農業の技術を実地にトレーニングをする。これは例えば中国の方たちの話を聞いていますと、環境問題で土地がやせてしまっているのか、科学肥料の使いすぎで土地の生産力が落ちてい中でいかに再生するのかといった大きな課題で農業リーダーが必要だと、あるいは林業の指導する人達が必要だというような要請があります。一つは3年計画、5年計画で熊本に滞在してもらって熊本のその豊かな農業を経験しリーダーとして送り返してその後も持続的に交流を進めるということも必要です。また、観光の人たちを受け入れようと思ってもホスピタリティ技術もとても大事です、語学だけではないのです。言葉ができればいいホスピタリティを提供できるわけではなく、専門的な知識を持ったアジアのお客たちのコンシェルジュが務まるような人材を、熊本ホスピタリティ養成所をつくり、育成する。そしてそこを卒業した人たちが要所々にいるというふうなかたちで特別な専門的なアジアの向けの人材養成ということをぜひ意識的になさらなければいけないのではないかなと思います。なかなかこうした人材育成というのは、50年、30年というのでは話になりません。特にこの職業人養成に関しては、5年計画、10年計画で十分実現の可能性があるのでないかと思います。ホスピタリティの人材の養成で申しますと、ぜひそうした各論で取り組んでいただきたいと思います。

それから観光客の誘致につきましても、今、大変な勢いでショッピング、あるいは名所めぐりの段階の観光客の方たちは中国。韓国や台湾の方たちは体験型、滞在型、あるいはイベント型というものもあるかもしれませんが、そうした体験ができる、仕組み、特にロングステイができるようなしかけづくりが必要です。ロングステイというのはこれからアジアの方たちにとっても日本人の方たちにとっても2、3日くるのではなしに、数ヶ月のレベルで滞在をする、セカンドハウス感覚で滞在をするという場としての観光というよりも交流型の仕組みをつくらなければならないのではないかなというふうに思います。それとそのためサポートシステム、建物をつくってホテルをつく

れば一人で、人が来るのではない。不自由な土地にそれをサポートしてくれる人がいるのかと手続きを代行してくれる人がいるのかと、お留守の間の家をメンテナンスしてくれる人がいるのかとそういったような人のインフラが必要になってくるのではないかなと思います。先ほど申しました人材養成等ともドッキングして魅力的なロングスティのできるような場というのを目指されるというのをぜひ、日本人にとってもアジア人にとっても、とても好ましいのではないかなというふうに思います。

企業が熊本の企業も今どんどんアジアの方に進出していっていらっしゃるようですが、特に中堅の企業の方たちがアジアに進出される時には、技術や資金の手当についてはそれぞれの企業のストロングポイントを発揮されるということだろうと思うのですが、ここでもロングスティの時あるいは観光の時につきまとうようにソフトインフラのサポート、手続きを代行するとかプロフェッショナルなアドバイスをする。そういった仕組みを合わせて県で、企業間内交流サポートセンターのようなものをおつくりになって、単なる技術提供ではなく専門家がその事務を代行してくれる、実際に色々交渉をしてくれるといったことを具体的にもう必要とされている。旗をたてて情報交換をしましょうだけではなしに、具体的に進出していく時の障害になる壁を越える手伝いをするサービス機関というのは、ぜひ行っていただきたいと思います。

そして特に一般の方たちの理解とサポート、私は要するに女性たちが色々な分野で活躍するのが本当の意味での豊かになる印だと思っております。経済成長、モノの豊かさが豊かな社会のメルクマールだといわれていた時代が終わって、質が問題になる、本当の意味での文化が高まる、暮らしが豊かになるときに、女性が色々な場で活躍できるのではないかなと思います。先ほどの大学に留学生がくる時、例えばホストファミリーというかたちでサポートをする、民間の支援を県が後押しをなさる、あるいは、職業人として勉強なさる時も地域の人達が、まだ言葉もおぼつかない修行中の留学生たちを温かくサポートするというような民間の協力も含めて熊本は十分そうした人達を育てる面で大きな力を発揮されるのではないかなと期待しております。

【蒲島知事】

ありがとうございました。澤田さんお願いします。

【澤田委員】

はい、もうほとんどの方は感じておられると思いますけど、まさにアジアの時代が今こよとしています。僕は観光関連で、旅行業をやっていますので、観光のことからお話すると10年から15年ぐらいはですね、飛行機はほとんど日本人がメインでした。アジアの方はまだほとんど少なかったです。しかし、この頃はお盆とか正月を除いて、日によってはアジアの方が多くて、席が取れないということが多々出てきている状態です。先ほどのコスタクルーズもそうなのですが、もう7割の方はアジア、特に中国の方が乗っておられます。日本人は、我々も売っていますけど、本当に3割が今の現状です。ただ、この状況はまだ出足ですね。多分5年後10年後に、この3倍、5倍、10倍のマーケットが動き始めるかなという感じが今しています。特に中国、タイ、インドネシア、マ

レーシア。ですから、一刻も早く受け入れ態勢の準備をしなくてはいけないのではないかと考えています。

話を九州、熊本に戻しますと、多分、中国でも上海の一部の方除いて、他の県とか例えばタイもそうですけど、熊本って、質問されたら、まず 10 人中、9 人、下手したら 10 人中 10 人知らないと言われると思います。これは一度マーケティングされてみたら分かると思いますけど。阿蘇はどこ、熊本はどこにあるんですかと、ひいては九州といってもご存知ではない方が非常に多いです。特に中国の地方になんかいきますとほとんどご存知ない、日本でご存知なのは、よくて、東京、京都まで、富士山。この3つぐらいはご存知の方が多いですけど、熊本ほとんどご存知でないのです。まずここをもう一度認識をしていただかないといけなかなと思います。何を言いたいかというと、一番まず大切なことはですね、もういつも話しておられますから、先ほども話されましたからお分かりだと思います、一番大切なことはまず知っていただくことなんですね。せっかくすばらしい城があるとか、阿蘇山があるとか、ほとんどの方はご存知ではないです。一部の旅行会社がツアーにして、パンフレットにしているところはご存知かもしれませんが。だから最初にやらないといけなことは、どんな素晴らしいものであっても、どんな素晴らしい建物、素晴らしい食事、素晴らしい歴史、自然、熊本にいっぱいありますが、ご存知じゃなければ、多分お越しにならないと思います。まず、いかに知っていただくか。ここにどういふ努力を払うか、ただ宣伝だけじゃなしに、いろんなやり方があると思います。例えば、北海道が今回増えたのはよく中国で映画やったからとか、その他、いろんなやり方で知っていただくということ。ここをもう一度マーケティングをきちっとして九州と熊本を知っていただく。そのためには、あれもこれもという戦略は避けた方がいいと思います。何か 1 つか 2 つ、これだというやつを、アピールした方がわかりやすいです。3 つも 4 つも 5 つもやると焦点がボケますから、戦略的に熊本はこれで売るんだということを 1 つないし 2 つ、予算があれば、それだけで来られると僕は思います。そのように、いかに、この九州と熊本を知っていただくかというアピールが大切だと思います。

僕は、今長崎のハウステンボスの再建のお手伝いをしているので、長崎から来ました、長崎は遠い、飛行機で東京から 1 時間 50 分。高い。不便。ここから行くこと 3 時間、福岡からでも 1 時間 2 時間、飛行場からでも 1 時間かかる。遠い、高い、不便で、上海には週 2 便しか出てない。何が言いたいかと言いますと、2 つめに重要なことは、アクセスなんですね、行こうと思っても行けない。行こうと思ってもフライトがない。行きたくても高い。飛んでない、行きづらい、これを解消しないとお客様は増えないと僕は今思っているのです。今、統計で韓国人、台湾人、香港の方が一番九州に来られている方多いんですね、圧倒的に韓国の方多いんです。これは本当にいろんな理由があると思います。近いという理由もありますけれども、ビートルというフェリー、船が走っています。これが随分アクセスを便利にしたんですね。ただ、圧倒的に韓国の方が多いのは、アクセスがいいからです。空のフライトも多分、九州から韓国のフライトが一番多いはずで、それと船を毎日のように九州福岡からいろんなところ走っています。アクセスがいい。お客様を増やすためには、今度新幹線走りますから、ここを上手く利用されればいいと思うんですけど、いかに九州の

アクセスをよくするか。やっぱり東京とかが多いのは成田、羽田、圧倒的な便数です。福岡が多いというけれども、フライトの数は10分の1です。僕は東京に住んで、旅行業やっていますからよくわかるんですけど、はっきり言って九州で多いと言われているアクセス、フライトは、はっきり言って10分の1です。福岡で何本ヨーロッパ飛んでいますか、福岡から何本欧米に飛んでいますか、もしくは近場に飛んでいますか。はっきり言って10分の1以下です。この福岡ですら10分の1以下です。これ、熊本長崎についてはもう話に僕はならないと思っています。それではどうして、このアクセスをよくするかについては、次回があればお話したいと思います。チャーターや船とかいろいろ話があります。ということで、2番目はまず知っていただき、来ていただくということ。その次にあんないいところあるから行こうと思ったときにアクセスの便利がいいということ。

次に3つ目に重要なことです。やっと知っていただいた、何とかアクセスもつながった。やっとここにこられた。その次に対するのが、皆さんいっておられるソフト。ソフトというのは2つあります。サービスとかクオリティとか、来られたら言葉が通じない、分からない。やっぱり文化、風土が違いますから、結果的には非常にトラブルになりやすいです。ですから、このソフトのサービスの強化、クオリティの強化を今から準備されておいたほうが良いと思います。3倍5倍やり方によっては10倍にお客さんが増えます。我々も混乱したのが、今年コスタクルーズが40数隻、九州に来て、HISが全部のこのラウンドというかバスの手配を準備させていただいたんです。船から大体2,000人が降りてこられます。大体2,000人というのは50台のバスが岸壁に並ぶわけなんです。ここまではいいんですね、優秀なバス会社いらっしやいます。そこからが大変なんです。中国人のガイド、もしくは中国語が話せる日本人を、50台分、その船が着いたときだけ集めるというのが、非常に困難なんです。我々も何とか無理やり集めたんですけども、そうすると、観光するとお客様から不満がでるんです。ガイドが悪いとか聞いても答えてくれないとか。何が言いたいかといいますと、ソフトをこれから準備しておかなければ、急に増えたときに、多分対応できなくなる可能性がでますので、その準備をぜひしていく。後のソフトは、ここに来ていただいたら、もう一度来たいなど、やっぱりリピーターをつくっていかないとしたのハードだけだと、1回で終わってしまうんですね。ハウステンボスもそうです。素晴らしいヨーロッパの建物がある、綺麗で電線一本もないです。花も立派です。本当に綺麗な街です。ぜひハウステンボスに来ていただきたいと思います。1回は来られるんですね。だけど2回は来られないんです。もう1回見たからいいと、高いし、面白くないからと。だから次に大切なことはやっぱりソフトなんですね。もう一度熊本に来たい、もう一度ここに戻りたい。そういうソフトをきちっと戦略的にされるべきだと思います。ソフトのつくり方というのが時間が長くなりますから今日は話しませんけれども、差別化とかオンリーワンとか、ここにしかないとか、ナンバーワンとか、世界一だとか、日本一だとか、何かですね、ここにしかないもの、ここに来て、帰って、あそこはああいうのがあったよと、ロコミの効果というのは、変な宣伝費よりよっぽど高いんです。ここに行ってよかったよと、こういうふうによかったと、こういうふう素晴らしかったと、必ずあります。本当によかったなら。悪くても一緒です。本当に言います。高い、面白くない、夜が寂しいとか。帰って必ず言われるんですよ。だから来ていただいたときに、帰ってきたときに、あんなのがあったよと、あんなに素晴らしかったよと。このロコミの効果が一番宣伝なんですね、長

い目で見ると。だからですね、3 番目はこのソフトをいかに構築していくかだと思います。そういうことで、観光のことはお話しませんでしたけれども、これぐらいにしておきたいと思います。

ということで、これからアジアの方が増えるのはほぼ間違いない。よっぽど影響を受けるのは、急激に通貨が下がったり、経済的に大不況になったり、こういうことで影響は受けると思います。ただ、5年10年の節目で見ますと、間違いなしに九州に旅行者は増えると僕は信じていますし、ほぼ間違いないと思います。ただ、いろんな意味で先ほど言った理由で影響を受けることがあると思いますけれども、その受入れの準備をもう今からしておかないと僕は間に合わないかなと思っています。以上です。

【蒲島議長】

ありがとうございました。出席者の方は一巡しましたけれども、ご欠席のお二人の委員の方からご意見をいただいておりますので、まず事務局の方からそれを紹介してもらいたいと思います。

【事務局】

時間が限られておりますので、簡単にご紹介させていただきます。資料の 14 ページをお開きください。松島委員からのご意見、4点ございます。1点目はアジアとの交流を県政の重要な課題の1つとし、一時的な流行で終わらせてはならないということで、留学生を増やし、アジアの熊本ファンを増やしたてはどうか。2点目は草の根ベースの交流を深める仕掛けが必要ということで、例えばカントリーゴールドに関連したイベント、こういったものをする。3点目は県民サービス精神の向上ということで、笑顔とともに一言声をかけるようなそういったことで熊本の記憶が長く残る。4点目、姉妹都市の交流を見直すということで、さらにインパクトのあるイベントというものを深掘りがないと価値を付加することが難しくなるように思うということです。

16ページ、細川委員からのご意見です。細川委員のご意見は、鍵を握るのは教育ということで、隣の国がどのような歴史を歩んできたか、きちんと学ばなければならない。例えば高校生を対象としたアジア塾を設立するのはいかがでしょうかというご意見がでております。これから近隣諸国に関心を持ち、理解を深める教育が 21 世紀の未来を明るくすると思いますというご意見でした。以上です。

【蒲島議長】

ありがとうございました。私もたくさんお話ししたいことがありますが、今日は控えて委員の方に時間をたくさん差し上げたいと思います。時間が11時半までで、もう20分近くしかありませんので、一人3分ずつでお願いします。

【小栗委員】

ただ今、澤田会長からインフラの件で、アクセスについてお話がありましたけれども、新幹線が

全線開通しますと、縦の軸というのがものすごく強化されます。九州全体としては横軸が弱いということがいつも言われているわけですが、やはり横軸として、例えば九州横断自動車道の延岡線とか、中九州横断道路という横軸の整備を進めていくことが、これから観光にしても、ものづくりにしても非常に大事ではないかと思えます。結果として、九州一帯の交通インフラの整備が進めば循環型の観光というのが推進できますし、また回遊性が高まれば、ものづくりに対して非常に有効だと思えます。結果として、九州の中心に位置する熊本県の拠点性も高まってくるのではないかと考えます。以上です。

【姜 委員】

早口で言っぱなしで恐縮ですが、まず、橋田さんがおっしゃったように中長期的に熊本のアイデンティティが何なのかということ、はっきりと理念的に明らかにしたほうがいいのではないかと。つまり、福岡と差別化する熊本は何であるのかということですね。これはやっぱり内側の目と外側の目の両方が必要だと思うんです。それでいうと先ほど、ニューヨークとワシントンという話だったのですが、私はやっぱり熊本はベルギーのブリュッセルではないかと思うんです。ですから、九州だけではなくて、アジアのヘッドクォーターというか色々な会議やいろんなものの中心的な拠点を熊本に置いたらどうか。そのための基盤整理、都市づくりというものを中長期的にやるべきだと思いますね。短期的には私は幸山市長さんにも言って、少し熊本市にも動いてもらっていますけれども、日中韓サミットを熊本城でやったらどうか。韓国は正直いうと加藤清正に少しアレルギーがあるのですけれども、加藤清正という人がどういう人なのかということは、韓国の人に知ってほしい。彼に対する一つのイメージがあって、それはやっぱりここに来てみれば、ずっと変わってくるのではないかと。新聞紙上で菅さん(菅直人氏)がたたかれると僕は批判されているようでいつも困るんですけれども、私の方はいろんなチャネル通じて政府の方にも働きかけます。そして何とか熊本で日中韓サミットをやれば熊本城が知られるし、そこから阿蘇にご案内していくと、そうすれば先ほど澤田さんが言った「知られない」ということはかなり一気に変わるのではないかと。そういうイベントということですね。

それから3番目には僕は最近、僕のちょっと知り合いなんですけれども、情報産業に勤めている人で、ソウルでいわゆるタッチパネル。つまりどこにいるか分からないときにデジタル情報の地図をタッチすれば、すべてのものが出てくるんですね。これが今ソウルの地下鉄にいくつか文字盤として置こうとしているんです。これは多分そんなにお金かからないと思うんです。例えば外からやってきた方にまず差し当たり、中国語、韓国語、英語で表示し、熊本市内をタッチすれば、その地図が拡大したり、立体的になったり、あるいは自分が熊本城に行きたい場合、熊本城の中までずっと案内してくれる、そういうタッチパネルをソウルの地下鉄内に置こうとしています。やっぱり留学生に聞くと熊本市で巡回する交通がよく分からないと答えるのです。ですから中国語、韓国語、英語で、そういうタッチパネルを一度視察されたらどうでしょうか。そういうタッチパネルをいくつか要所々に市内あるいは観光地に置くということですね、それだけでも随分違うと思います。

それから中長期的なテーマとして坂東さんからもあった話ですけれども、実は私は大阪に東北

アジアコリア国際学院というのを作ろうとしました。私はその理事長になりましたけれども、ご案内の通り我々は一応国家公務員扱いですから理事長になれないということで、途中で僕は理事長職を降りたんですけれども、一応今のところ運営されております。ただ、これは一条校になるかどうかわかりませんが、これは中学と高校一貫教育で、そして中国語、韓国語、英語、日本語です。この四ヶ国をベースに、中学からそれを徹底して教育して日本の有名大学にも入れるし、アメリカの大学にも行きたければ行けるし、中国や韓国の大学にも入れるんです。私は中高一貫教育の東北アジア何とか学園みたいなものを、熊本に誘致する団体をつくって見たらどうかと。私もそのノウハウはよく分からなかったんですけれども、一応細々として一応つくりました。かなり受験にも耐えられるかなりいいところに行っていると思います。だから県が主導してやれば十分できる。将来、そういう人を熊本から輩出する。不幸な歴史でしたけれども、昔やっぱり同文書院も満州国につくりました。これは国策のためにつくったわけですが、しかしそこでは五族協和というイデオロギーの下で、それは結局誤りだったわけですが、今回は、中国、韓国、日本から学生を募集してもいいと思います。とにかく4ヶ国語ということ、そんなことをやったらどうかということを少しお話ししたいと思います。

【蒲島議長】

ありがとうございました。日中韓サミットについては私も一生懸命に働きかけていますので、姜さんもぜひ一緒に協力してください。

【崎元委員】

はい、時間がありませんので、交流を拡大するための手立ての項目だけを申し上げておきたいと思えます。基本的には大学の立場から申し上げますけれども、一つは国際コンベンションの誘致ということで、たくさんのお客さん、コンベンション、学会等が熊本で開催されるということで、熊本大学を中心にいろんな学の研究のネットワークを東アジアに持っています。例えばマグネシウム合金とか衝撃エネルギー、あるいはエイズなどの感染症、あるいは遺伝子改変マウス等々の研究など、これだけではございませんが。そういう国際会議を開催できるということであります。

それから熊本アートポリスというのもこれは県がかなり長い期間投資をして我々大学も協力をしてやった県内全体が建築の博物館であるというようなことで、海外からのお客さんも今も引き続き多いということであります。

それから熊本大学のことで恐縮ですが、フォーラムを海外で開催しております。平成 17 年、中国、上海でやりましたし、18 年に韓国、大田、それから20年にはインドネシア、スラバヤ、今年は12月の4日、5日はベトナムのハノイで、開催をいたします。これは県あるいは企業、行政にも参加を呼びかけています。今までも県からもいろいろご協力いただき参加していただいておりますけれども、そういうことを利用していただくというのもいいのかと思います。それから大学の海外オフィス、県もオフィスを持っておられますけれども、これを共同設置共同利用というのは前回以前も申し上げましたように中国、インドネシア、あるいは韓国に共同のオフィス、拠点を持つと

いうことをすればどうかと思います。

留学生のことは先ほどからたくさんご指摘いただいておりますので、同感でございますが、坂東委員が申されました英語による講義につきましては、前回の教育のテーマのところ、私の方から県内の各大学の状況をお話しました。英語で教えている大学もありますので、もっとやってほしいという話をいたしました。留学生を利用するといえますか、今、700～800 人ですけれども、30 万人計画で 2,000 人くらいにはなるかと思えます。

先ほど澤田委員のほうから、通訳の方が少ないということがございましたけど、留学生を通訳の仕事として雇うのはビザとかの関係で非常に難しいんです。かなりのお手伝いをするというシステムは作れるんじゃないかということがあります。それから別の観点で、先ほど日中韓の会議ありましたけれども、環境先進国、あるいは環境先進県というふうな考え方でいいますと、水俣を生かすべきです。熊本は知らなくても水俣を知っている人は海外には多いかと思えます。知事がおっしゃってました世界環境会議の誘致、あるいは熊本大学が国の助成でやっております水俣環境塾。これは今環境について発信できる日本人を養成しておりますけれども、これを国際化する、海外から呼んできて、人材を養成するというのを今後考えていきます。

それからこれも以前に指摘がありましたけれども、熊本大学の病院を活用するというので、中国、韓国の富裕層をターゲットとした医療、人間ドック等の医療と観光をセットにした旅行企画もありうると思えます。それから知名度アップの広報という話では二つ。アンテナショップというのを熊本県は銀座に持っていますけれども、これを海外で持てないかと。可能性を検討していただきたいと思うんです。何を求められているのかというのを知るためには、お金がかかるのでしょうかけれども熊本の物産館を上海にだすということ。上海には日本の「そごう」とか日本系のデパートがございますけれども、そういうところにコーナーを設けられないかというようなことを考えております。それからもう一点は、これも固有名詞を出して、ご迷惑をかけるかもしれませんが、「味千ラーメン」。皆さんご存知のように戸島に本社がございます重光産業ですけれども、これは今世界、海外で 500 店舗、中国 70 都市に 400 店舗展開しておられるんですけれども、5 年以内に 1,000 店を目指すというふうにあります。ここに何かご協力いただいて、例えば 500 店舗のそのお店に熊本の物産あるいは観光の中国版なり、海外版のポスターを作って、店舗の壁面にポスターをたくさん貼っていただければ、かなり常に目にするというので知名度を確保できるのではないかというふうに思えます。

多文化共生地域づくり、これ先ほどからおっしゃっていますけれども、ソフトの開発ということで、我々も少しずつ国際化をしないとイケないということだと思っています。ぜひ、いろんな行事があるときに、市民、県民の皆さんはホームステイとかホームビジットをまず受け入れる。中国の方、韓国の方、あるいは諸外国の方と接して、どういう歴史あるいは思考を持っているかということを少しずつ学んでいくことが必要かと思えます。ぜひ県、市あるいは大学等いろんな行事をしているときにホームステイあるいはホームビジットを積極的に受け入れるということをお考えいただきたいと思えます。以上です。

【蒲島議長】

ありがとうございました。それでは橋田さん。

【橋田委員】

時間も無いので2つだけお話しします。先ほども少し申し上げましたが、私は熊本には強みと弱み両面があると思います。「己を知れば百戦危うからず」という諺がありますが、熊本の方々が行政も含めて、本当に熊本の強みと弱みを客観的に把握していच्छやるのかなということを感じます。いろんな資料をいただいたり、調査研究されたものもありますが、例えば世界一のカルデラというのは皆さん思っておられるようですが、さっき澤田社長がおっしゃったように、ほとんど認知されていない。そういう現実をしっかりと分析する必要があり、どう対策をうつべきなのかということを考える必要があると思います。

もう一つは、国際交流の件ですが、福岡はアジアとの交流を長年に亘って行ってきました。これはもう20年ぐらいになりますが、アジアマンズ、ヨカトピアなど。あるいは継続してアジアの国々子どもたちとの関係づくりなどを大切にしていまいりましたので、結構実ってきております。そういう意味で、国際交流の基盤においては、福岡と熊本には圧倒的な差があるのではないかと思います。例えば空港の路線数や港湾での定期航路、外国公館、国連、外国政府関係機関、国際会議場、展示場、国際の演習施設などそういうものを少し考えてみると相当差があるのです。ぜひ新幹線開通を機に、何とか熊本に会場を持ってくる、そして鹿児島や福岡に泊まってもらう。逆に、福岡で各種国際会議が終わった後は、熊本に泊まってもらうなど、そういう運動を積極的に行って欲しいと思います。我々も九州を宣伝するために福岡でばかり実施しても大したものはありませんので、ぜひ熊本に行ってくださいということをPRしていく所存です。以上です。

【坂東委員】

今、できるだけ豊かなアジアの人たちが、熊本でお金を使ってくれるように、熊本にとってプラスになるようなという議論が今とても主流です。けれども、同時に少しでも心に留めておいていただきたいと思うのは、アジアの中でも豊かな国ばかりではなくて、貧しい国もたくさんあります。そうした貧しい国にとって、困っているときに助けてもらうというのは本当の心の交流になるだろうと思います。ところがなかなか持続的に個人がやっていくというのは難しいのです。例えばカンボジアで小学校を作るのは300万円あればできるよと言われたんですけども、その時にはそれを建設する団体の維持費の為のお金を別途毎年払わなければならないというように、中間搾取と言ったら悪い言葉ですけども、間接経費が必要になる。持続的にそうしたサポートをしていくというのは難しいんです。その県、あるいは姉妹都市の方たちがいわゆるイベントとして交流として豊かな人たちを招くだけではなしに本当のニーズのある人たちに、教育をする機会を与える、そういう人たちの生活の向上に特に投資するべきだと思います。人道的援助は短期的にはロスですが、長期的に大きな実りをもたらします。そうした援助を教育、農業、環境の分野で意識的になさるというのも、結果的に20年、30年先には熊本を大きくアピールすることになるのではないかなと思います。

す。ぜひそうした支える交流も考えなければならぬと思います。

【澤田委員】

九州はご存知だと思いますけれども、東京よりアジアに近くて、アジアのマーケットが関東より大きいんですね。この九州だけを考えると、もっともやり方次第では本当にこれからアジアの時代の中心的位置になっていると思います。そのためには長期といいますか、州都を目指されるのであれば、戦略的にきちっと計画をされてですね、州都になるための街づくり、州都という限りはアジアの方に来ていただいて、さすが州都だなというふうな素晴らしい街づくりの、ただビルを建てて行くのではなくきちんとした、州都にふさわしい街づくり計画を、ぜひしていただきたいと思います。

それから先ほどから言われている教育、やっぱり教育が最も大切じゃないかと思います。留学生をもしたくさん呼ばれるのであれば、僕はきちんとした目標をつくられたほうがいいと思います。今年は何千人迎えよう、来年は何千人迎えよう、そのための準備をこういうふうに計画しよう。それで受け入れ態勢ができたなら、この目標達成のためには絶対にこれだけの留学生を来年は迎え入れるんだというきちんとした目標があったほうがいいのではないかと思います。観光客の数も同じです。来年はこれだけの観光客を九州に泊まっていたくというきちんとした目標を、できるできないは、置いておいていただいて、きちんとした目標をつくっていただいてその目標にあわせて今何をやるか、今どういう戦略でやっていくかという先を見ながら今何をやるかということを考えていただくためにもきちんとした計画と目標が必要かなと思っております。

【蒲島議長】

ありがとうございました。県政にとってまた、私たちにとっても貴重なご意見ありがとうございました。学者時代と違って知事になると実行力が伴いますので、ぜひ皆さんのご意見に対して実行力を持って進めていきたいと思っております。本日は貴重なお時間ありがとうございました。

【事務局】

委員の皆様方は長時間ありがとうございました。議事録の内容は後日、県のホームページに掲載させていただきたいと思っております。